

学校法人豊昭学園
東京交通短期大学
機関別評価結果

平成23年3月24日
財団法人短期大学基準協会

東京交通短期大学の概要

設置者	学校法人 豊昭学園
理事長名	函師 透
学長名	田中 宏司
ALO	岡本 久
開設年月日	昭和27年4月1日
所在地	東京都豊島区池袋本町2-9-1

設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
運輸科(第2部)		80
	合計	80

専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

東京交通短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 23 年 3 月 24 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 21 年 6 月 11 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

全国に数ある短期大学の中で唯一「交通」の名を冠している「運輸科」を単科とする短期大学であるため、出口はもとよりあらゆる領域で鉄道等を初めとする交通部門とのつながりが多いのが最大の特徴である。建学の精神は、『質実剛健』（飾りけがなく真面目で、たくましく、しっかりしている）を旨とする建学の精神を継承・発展させて、社会の発展に貢献する有意な人材を育成するためにたゆまぬ努力を果たす。」であり、教育理念及び教育目的・目標は明確に確立されている。後二者に関する不断の点検・周知はあらゆる機会を通じて十全に徹底されている。

教育内容についていえば、基礎から専門に至るまで「交通」を中心にしつつ学生の多様なニーズにこたえたカリキュラムを用意し、学長の強力なリーダーシップの下、全教職員が一丸となって真摯な努力を傾注している。その結果は教育目標の達成度や教育効果等の高さに如実に反映している。

専任教員は、短期大学設置基準を充足しており、校地・校舎ともに短期大学設置基準を満たしている。財務状況の好転により、施設の狭さ及び使い勝手の問題点も改善の見込みが現実的なものになっていることから、教育環境の更なる整備・活用が期待できる。

学習支援については、能力別クラス編成や的確な指導体制等により個々の学生の能力向上に多くの努力が払われている。

研究については、当該短期大学が独自に「東京交通学会」を平成 14 年に立ち上げ、その機関誌として「研究紀要」を発行し、ウェブサイトにて公開するなど、研究及びその報告について組織的奨励が行われている。

社会的活動は、公開講座、ボランティア活動等が積極的に行われている。国際交流は余り活発ではないが、例えばアジアの国々が鉄道網の充実を国策としている関係で、今後大いなる進展が期待される。

管理運営については、毎月 1 回の理事会や毎週 1 回の常任理事会あるいは月 2 回の教職員会議が精力的に開催され、教職員相互のコミュニケーションも十全に行われて

いる。

財務状況については、学校法人全体と短期大学部門の双方ともおおむね安定している。

平成9年度から取り組んできた自己点検・評価活動は、どの局面をとっても全教職員が積極的にこれに関与しており、その結果を真摯に次のステップの糧とするなどフィードバック体制の構築に努めている。そして、これまでの取り組みが今般の認証評価のための自己点検・評価報告書に結実している。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 建学の精神、教育目的・目標のみならず、学生の進路を意識して「企業の倫理」や「社会的責任（CSR）」等をも取り込んだ独自の「スローガン」、「行動規範」を用意し、学生一人ひとりの道徳観やキャリア意識の向上を図っている。
- 教育理念や教育目標・教育内容の学生への周知徹底は、シラバスやオリエンテーションのみならず、「基礎ゼミ」を通じて日常的に行われている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 同窓会報の発行は手間と時間のかかるものであるが、当該短期大学では毎年発行し内容も充実している。これは在学生の就職支援に大きく役立つのみならず、卒業生の帰属意識形成にも役立っている。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 就職支援は、就職相談室を設け、就職担当者を常駐させ、進路支援授業も担当させるなどきめ細かい指導体制を構築している。その結果、就職内定率は高水準となっている。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 毎月 2 回の「教職員会議」が開催され、教職員相互の意思疎通・問題点の共有などが図られている。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善ができれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域（合・否）と連動するものではないことにご留意願いたい。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 入学定員及び収容定員超過の状況を改善し、適切な教育条件の保全に留意されたい。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 当該短期大学は授業を午後から開講しているが、施設設備は併設高等学校との共用部分が多く、保健室等の運用は高等学校の授業時間を中心に行われている。そのため、午後 5 時以降の学生施設利用に支障を来すと思われるので、短期大学の授業実施時間に合わせた利用時間の延長が望まれる。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 学校法人の予算・事業計画の審議は、理事会に先立ち評議員会の意見を求めることを私立学校法及び寄附行為により定めている。その規定と異なる状況が現認されたので是正が必要である。

評価領域Ⅸ 財務

- 短期大学部門の教育研究経費比率が低いので、改善が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

全国に数ある短期大学の中で唯一「交通」の名を冠している「運輸科」を単科とする短期大学であるため、例えば出口に当たる就職先も鉄道等を初めとする交通部門が多く、そうした特徴が建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標にも如実に反映されている。すなわち、『質実剛健』（飾りけがなく真面目で、たくましく、しっかりしている）を旨とする建学の精神を継承・発展させて、社会の発展に貢献する有意な人材を育成するためにたゆまぬ努力を果たす。」という建学の精神と、それを基に人材育成の方針を説明している教育理念、それらを具体化するための教育目的・教育目標が明確に示され、あらゆる機会を通じて各方面に周知されている。さらに、就職先の企業等が持つ倫理観を「スローガン」、「行動規範」という形で学内に積極的に取り入れ、学生一人ひとりの道德観・キャリア意識の醸成に努めている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

「運輸科」という鉄道等交通機関に特化した学科を設置する当該短期大学は、その教育内容においても独自性・特殊性を有している。すなわち基礎科目には平均的な学問体系から抽出された科目群を配する一方で、専門科目群では「交通」を中心にしながらも「鉄道」という更なる絞り込みの要素によって、より効果的な科目群の設定が行われている。また、各種資格取得では、特に「旅行業務取扱管理者（国内）資格」に力を入れ、一定の成果をあげている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

当該短期大学は長い歴史をもつ都市型の短期大学であるが、そのため施設の老朽化・併設校との施設共有による狭あい性等の課題を認識している。学長の適切なリーダーシップの下、教育の実施体制についても全教職員は常に問題意識を明確に持ち、改善に向けた真摯な努力を行っている。

授業の多くの部分は兼任教員に頼っているが、これも近年の専任教員の増員・新規採用により、改善されつつある。

入学定員及び収容定員超過の状況を改善し、定員増を図るなど適切な教育条件の保全に留意されたい。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

当該短期大学は、教育目的から授業内容・卒業後の就職状況に至る全般にわたって特色ある短期大学となっているが、それはまさに教養型短期大学でありながら「運輸」に特化していることが功を奏した結果であり、とりもなおさず教育目標の達成度の高さと教育の効果を如実に示すものである。学力試験を課さない「意欲重視型入試」の弊害を意識し、今後は何らかの形でペーパーテストを導入する意向であるが、これにより入試段階での絞り込みを行うことが可能となり、教育目標の達成度と教育の成果はより一層高められると思われる。

評価領域Ⅴ 学生支援

入学希望者に対する支援は、「ガイドブック」等により適切に周知されており、年間14回実施される多様な入試方法により多くの受験機会を設けるなど種々の工夫を図るとともに、適切に行われている。

学習支援に関しては、英語、コンピュータ実習、基礎ゼミ等の基本科目では「能力別クラス」の編成や的確な指導体制の構築など個々の学生の能力向上に多くの努力を払っている。

学生の自主的な活動も活発に行われるなど良い校風が作り上げられているが、併設の高等学校との施設共用部分があることから若干の支障が見受けられる。また、学費支援では、「授業料減免事業等支援経費」の利用も含めた、経済困窮学生に対する多面的支援の検討が望まれる。

評価領域Ⅵ 研究

おおむね全教員が研究活動を積極的に展開しており、その研究成果はウェブサイトにて公開されている。

研究環境に関しては、教員研究室が共同研究室（2室）となっており、施設新設の際には個人研究室の増設も検討されたい。教員共同研究室は、教員間の情報交換の場として教育活動の面からは好ましいとも考えられるが、研究活動においては改善の余地

がある。

評価領域Ⅶ 社会的活動

社会的活動は、無料の公開講座、ボランティア活動、社会人の受け入れ、国際交流が行われている、無料の公開講座は毎週土曜日に開催されており、体験入学の受験生（高校生）の参加が主である。講座のテーマをみると大変興味深い講座も多いので、地域や社会人に貢献できる有効なツールとなり得るものである。

ボランティア活動では、朝の通勤時間帯の鉄道駅務の補助要員ボランティア、海外援助活動のための各種収集活動等が行われ、ボランティア有志の代表に学長表彰も行われている。社会人受け入れについては平成 19 年度から「一般入試」を「一般入試・社会人入試」と銘打って取り組んでいるが、社会人のニーズも十分に期待できる教育内容であるので、公開講座の周知を含めた広報活動の充実を求めたい。

また、東アジア圏が鉄道網の充実を推進している現在、その分野での今後の国際交流を期待したい。

評価領域Ⅷ 管理運営

ガバナンスは毎月理事・監事全員参加の理事会が開催され事業計画等の進捗状況がチェックされており機能している。また常勤理事と事務長が参加して毎週 1 回の「常任理事会」が開催され、それぞれの担当理事が業務報告及び理事会への提案事項等を検討している。予算及び事業計画はあらかじめ評議員会に諮り理事会で審議することが寄附行為に規定されているが、それに反する実態が確認された。また、平成 22 年 3 月開催の理事会では、事業計画が資料添付・報告されているが、審議事項として提案されていない。私立学校法及び寄附行為の規定に基づき理事会・評議員会を運営する必要がある。

評価領域Ⅸ 財務

学校法人全体では、若干の財務上の課題はあるがおおむね順調に推移している。しかし、収益上の核をなしている併設高等学校の定員充足率にかげりも認められるので、短期大学としての施設整備計画を含めた財務に関する中長期計画の作成が必要と思われる。

短期大学部門では、教育研究経費の増額などの見直しが今後の課題である。

評価領域Ⅹ 改革・改善

当該短期大学における「自己点検・評価活動」の取り組みは比較的古く、平成 9 年度より学科長を委員長として委員会が立ち上げられ始められた。成果としての報告書がまとめられたのは、平成 19 年（平成 18 年度版）と平成 21 年（平成 20 年度版）並

びに今般の第三者評価用の 3 回であるが、いずれの場合も専任の全教職員が評価活動に携わることで、当事者意識の高揚と改善策等を共に考えるためのきっかけ作りとなっている。